

1. 前回（第13回東北・北海道支部総会）では、ソビエト学校における現行の〈家政〉の実施面について述べたが、今回は、ソビエトの学校体系のなかに〈家政〉が成立された過程を若干追ってみたいとおもう。

2. 主として、ソビエト教育に関する雑誌、新聞などに掲載された論文によって、調査した。

3. ソビエトの学校教育の理念は、帝政ロシヤの時代と、革命後とでは、根本的に相違する。しかしながら、革命前のロシヤにおいてさえ、1800年代半ばの手工学校において、すでに総合的な教育が含まれていたという。これは、19世紀の啓蒙主義の影響を受けたものであろうと推察されているが、〈家政〉も、少年向き、少女向きの労働教授の内容の分化の結果生じたものであるとはいえ、知的労働と肉体的労働を結びつけた、全面的に発達した人間の育成をめざす「総合技術教育」との関連づけなしには、その成立は考えられない。

最初のソビエト学校の教科プラン（1920年）のなかには、技術的な特別な教科は含まれていないが、手を使う作業は、いろいろな教科目にかかわり合い、おこなわれるとしている。労働学校においては、裁縫や、他の家政管理的＝日常的な習熟が与えられた。1957/58 学年度から、上級学年の少女向きに選択として、〈家政〉がとり入れられ、1959/60 学年度から、すべての一般教育学校の必須科目となった。